

数々の“日本初”で種をまき、 時代が求める「見える」を追求してきました。

シードでは創業以来、眼に関する様々な商品を開発し、お客さまの「見える」に貢献してきました。
これからも日本中、世界中のお客さまの声を聞き、時代が求める「見える」に、高品質の商品できめ細かく応え続けます。

1962年 **ハード**
ハードコンタクトレンズを発売

1972年 **ソフト**
ソフトコンタクトレンズを発売
日本初のソフトレンズ

1992年 **ハード**
新素材を使った
酸素透過性
ハードコンタクトレンズを
発売

1993年
眼鏡市場に参入。
業界初レンズと
フレームのセット販売
業界初

2000年
女優松雪泰子
プロデュースの
アイウェアブランド
「Vivid Moon」を発売

1992年
ソフトコンタクト
レンズケアシステム
「コンセプト F」を発売
煮沸消毒不要のケア用品

2007年
ハードレンズの
酵素洗浄保存液
「ピュアティ モイスト」を発売

1997年 **使い捨て**
使い捨てレンズを
発売

2004年 **使い捨て**
2週間交換
コンタクトレンズを発売
初の国産使い捨てレンズ

2009年 **使い捨て**
1日使い捨て
コンタクトレンズを発売
初の国産ワンデー

2012年 **使い捨て**
UVカット付き
サークルレンズを発売

2013年
オルソケラトロジー
「プレスオーコレクト®」を
一次代理店として販売を開始

2014年 **使い捨て**
乱視用1日使い捨て
コンタクトレンズを発売
純国産

2015年 **ハード**
独自のデザインを採用し、
目にやさしい装用感を実現
シード独自

2018年
ニューヨーク発のブランド
「JILL STUART」と
コラボレーションした
カラーレンズを発売

2019年
EDOF原理を採用した
遠近両用コンタクトレンズ
を発売
日本初、医療発※
※ EDOF (拡張焦点深度) の原理を採り
入れたコンタクトレンズとして承認を
取得し、日本で初めて製品化

1951年～
日本初のコンタクトレンズ研究を開始

義眼製造を営む厚沢弘陳が、順天堂大学に協力する形でコンタクトレンズの研究をスタート。厚沢は手づくりの試作機でプラスチックの成形実験を繰り返しました。1957年には球面切削旋盤を導入し、量産化に成功。コンタクトレンズ専門メーカーとして歩み始めました。

売上高推移

使い捨て
コンタクトレンズが
普及

遠近両用二種の
増大

新たな価値が
求められる時代へ

売上高
286.17億円

成長のポイント

研究開発

高品質で安全な「目」に関する 商品を開発

シードは、国産コンタクトレンズの黎明期から、日本人の眼に合うコンタクトレンズを研究してきました。創業当初は、一人ひとりの目に合わせるため、手作業で度数を調整。丁寧なものづくりで安全・高品質な商品をお客さまにお届けする精神は、今も受け継がれています。

創業以来64年、大きく変化する市場のニーズに対応し、

シードが開発する商品はハードレンズからソフトレンズ、定期交換レンズや使い捨てレンズと、広がりを見せてきました。装用感にもこだわり、高品質を追求しています。近年は、近視用の他に乱視用、遠近両用、医療用等、多様な商品を開発。今後も、新たな価値を付加した商品開発に力を入れていきます。



製造

市場ニーズに応じて 多品種・量産体制を構築

1日使い捨てタイプの需要の高まりに対応すべく、量産体制の強化に努めてきました。2007年に竣工した鴻巣研究所では高効率な生産体制を構築し、月間製造枚数は稼働10年で約20倍に増加。日本一のコンタクトレンズ生産量を誇ります。※当社調べ

一方、海外展開等により品種が増加するなか、多品種少量生産にも対応し、効率的な生産を行っています。



海外展開

地域のニーズに合わせた商品展開で 世界のSEEDへ

シードの強みは「Made in Nippon」の品質力。2011年に上海の現地法人を設立以来、各国に合った商品開発と展開を強化しています。近年は、カラーコンタクトレンズ(中国や東南アジア)、オルソケラトロジー(中国)、乱視用・遠近両用等機能性レンズ(欧州)の需要が増加。2021年は販路を40以上の国と地域に拡大し、世界中のお客さまをサポートします。



「眼」の専門総合メーカーとして、国内一貫体制で高品質な商品を提供しています。

コンタクトレンズからケア用品、眼鏡まで、「見える」に関する商品を提供しているシード。
研究開発から生産、販売・マーケティングまで一貫して自社で行い、「Japan Quality」で多様化するニーズに対応しています。

シードは「眼」の専門総合メーカーとして、多様な商品を展開しています。なかでも売上の95%以上を占めるコンタクトレンズは、ペースメーカーや人工呼吸器と同様に人体に重大な影響を与える「高度管理医療機器」であり、極めて高い安全品質を堅持しています。海外においても、EU加盟国の安全基準「CEマーキング」等を取得し、現地ニーズに応じた高品質な商品を製造・供給しています。



販売・マーケティング

国内の8つの営業拠点を通じてお客さまニーズを喚起し、シェアを拡大

国内20営業所（駐在も含む）から、眼科やコンタクトレンズ専門店、眼鏡店等、多様なルートに展開。各取引先に向けた販促施策をきめ細かく提案し、販路拡大に繋がっています。なかでもファッション性の高いサークル・カラーレンズ等は、高品質と安全性をベースに、ユーザーに訴求する販促が奏功しています。



関連子会社
ユアコンタクトの店舗

ブランドイメージを
訴求した販促品

欧州・アジアを中心に40以上の国と地域に販路を展開

海外12現地法人22代理店を通じて、ローカルニーズに合わせた販促活動を展開し、40以上の国と地域に商品を供給しています。各国への薬事申請も積極的に行い、販売可能アイテムを追加しています。また、現地法人と協力し、展示会や学会への参加を通じて、ブランドイメージの浸透と新規販売国の開拓を目指しています。



シンガポールでの
学会の様子

ドイツでの展示会に参加

研究開発・生産

シードの商品が生まれる鴻巣研究所では基礎開発から生産、出荷まで一貫して行っています。開発を担う研究開発本部と生産を担う生産技術本部は、どちらも鴻巣研究所にあり、互いに連携。そのため素材開発から量産化までシームレスに繋がり、最先端の研究成果を迅速に商品化することが可能です。

約52,000㎡の広大な敷地を持つ鴻巣研究所には、研究開発を行う研究棟、定期交換レンズや海外向け、犬・猫用等に対応する多品種ラインの1号棟、1日使い捨てレンズ等に対応する超大量生産ラインの2、3号棟を設置しています。建物ごとにラインの用途を分けることで効率的な生産体制を実現し、コンタクトレンズ生産量は日本一※¹を誇ります。2020年11月には製品・資材倉庫棟が稼働し、国内外への出荷増に貢献。研究や生産に携わる従業

員の働きやすさ向上のため、保育・児童施設も設置されています。

工場では医療機器メーカーとして欠かせない品質を厳格に守るため、自動検査システムを複数回実施しています。また、若手社員を中心に、品質改善に向けたQC活動※²にも積極的に取り組み、「Japan Quality」の一層の向上に努めています。

※1 当社調べ
※2 品質管理を自主的に行うグループ活動



研究開発

プロダクトの多様化を進めコンタクトレンズの新たな価値創出へ

シードでは、主力ブランド「Pureシリーズ」を支える両性イオン素材「SIB」といった独自素材を開発する等、かねてから研究に力を入れてきました。今、注力しているのが、コモディティ化していない製品の研究開発です。プロダクトの多様化を進め、医療・検査・治療用レンズ、医療用デバイス等、コンタクトレンズの新たな可能性を拓く製品を研究しています。研究にあたっては、大学や研究機関との連携を強化し、オープンイノベーションを積極的に推進しています。

技術開発テーマ

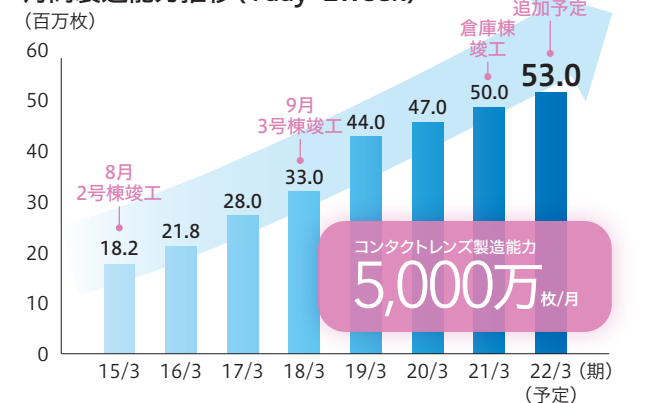


生産

日本一の生産枚数を誇るとともに、多品種少量生産を実現

主力である1日使い捨てレンズを安定供給するため、生産能力を増強してきました。加えて近年は、ニーズの多様化や海外展開の推進を受け、小ロットの品種が増加しています。効率的な生産を実現するため、生産管理システムのIoT化、倉庫内物流の改善、設備補強等を行っています。新たに建設された製品・資材倉庫棟には、コンタクトレンズの入った搬送箱を自動的に格納する機能を備えた製品自動倉庫や、荷積み・荷降ろしを行うパレタイジングロボットを導入。省人化や物流効率化を実現しています。

月間製造能力推移(1day・2week)



日本のパイオニアとして常に新分野に挑戦し、 より多くの「見える」に貢献しています。

シードは、使い捨てレンズの利便性やサークル・カラーレンズのファッション性等、市場ニーズに柔軟に対応し、コンタクトレンズの可能性を追求してきました。これからも「見える」の課題に向き合い、新たな価値創造に挑み続けます。

外部環境の変化

- 少子高齢化の進展
- 人口減少の加速
近視人口の拡大
- 世界経済の不透明感
- デジタル革新の加速
- 就業意識の変化
(ワークライフバランスの進展)
- 気候変動問題の本格化
- 海洋プラスチックごみ
問題の深刻化

SEED

「見える」をサポートします



強みを支える非財務資本

国内市場シェア 10%	展開国 40カ国以上	生産能力 5,000万枚/月
国内取扱 コンタクトレンズ商品 39種類	研究開発比率 4.8%	外国籍社員 2.2%

シードの強み

より多くの「見える」を
サポートする

**多様な製品・
事業展開**

高品質な多品種
少量生産を実現する

**Japan
Quality**

未来の「見える」に
挑戦し続ける

**積極的な
研究開発**

中長期戦略

- 重点施策
- 世界展開
 - 生産体制強化
 - 商品開発
 - 新たな付加価値

価値創造基盤

- 品質
- 人材
- 環境
- ガバナンス



地域社会



取引先



お客さま



従業員



株主・
投資家



政府・
自治体

社会への創出価値

- 安定的なサプライチェーン実現
- 安全・安心な製品・サービス提供
- 世界中の人々のQOL向上
- 視覚障がい者の自立支援

ビジョン

**日本のシードから
世界のSEEDへ**

- 視力矯正医療への貢献
- 誰もが働きがいを持ち
成長できる職場環境の提供
- 脱炭素社会への貢献
- サークキュラー
エコノミーの実現

少子高齢化をはじめ劇的に変化する 国内外のお客さまニーズを見据えて

デジタル機器の普及で世界の近視人口が増加し、特に子どもの視力低下が深刻になっています。人口減少の局面にある日本でも、コンタクトレンズ装用が低年齢化し市場は微増傾向です。また高齢者人口が増加し、遠近両用レンズの需要が高まる等、ニーズが多様化しています。一方、プラスチックを取り扱うメーカーとして、環境問題への対応も不可欠です。

これからの「見える」をカタチにする 専門総合メーカーとしての強みを活かして

シードでは、幅広い度数ラインアップや見え方、装用感、ファッション性等、さまざまな視点からお客さまのニーズに応える商品を開発し続けてきました。国内一貫生産を実現する鴻巣研究所から、高品質の商品をお届けしています。また、近視進行抑制、医療との融合、デジタルデバイスとの融合等、未来の「見える」に貢献するための研究開発を強化しています。

ステークホルダーと協働し、 より多くの方々の「見える」に貢献

シードは、ステークホルダーとの信頼関係の構築を最重要項目としています。なかでも、大学や研究機関、他社との協働による研究開発や人材交流を積極的に推進し、さらなる価値を生み出しています。そのほか、お客さま・株主・投資家・取引先等様々なステークホルダーと対話の機会を設けており、それらを踏まえて、シードのあるべき姿の実現のために、事業活動の改善を図っています。